

## New Face

### 国広 卓也 (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

自分は学生時代を東工大で過ごしました。指導教官である塚本先生にはみっちりご指導いただきました。平田先生、中澤先生、井田先生らさまざまな方々のお世話になりました。井田先生には以前惑星科学会の口頭発表における緊張感について、自分の所感を運営委員に、運営委員の反応を自分に伝えていただきました。当時自分を焚き付けたのは中澤先生です。最近学生学会最優秀発表賞が設置されました。学生の中で発表が一番上手であるという評価は励みになると思います。しかし学会の活力はやはり博士号を有する方の発表によって決定付けられると思います。

さてこのニューフェースでは博士論文について書くことが通例のようですが、自分の感じている雑多なことを書かせていただこうと思います。そのことを通じて自分の世代や学生の参考になる何か伝えられれば、と思います。

自分は学生時代、永島一秀さんとともに一貫して分析法 (同位体顕微鏡; Nagashima et al., 2004) の開発を行っていました。我々の行っていることはサイエンスではないという無言の圧力を感じていました。しかし自分が将来共に働く人に認められれば十分なのです。若手の皆さま、自分と仲間と自分の指導教官を信じ、最高のパフォーマンスをもって開発をやりとげましょう。誰かがきっと見えています。

以前分析の困難に面したことがありました。見通しのたっていない段階で塚本先生は「難しければ難しいほどやりがいがある」とおっしゃっていました。塚本先生の境地には立てませんが「めんどくさいことになればいい」と思うことがあるのは事実です。緊張した状態で長時間向かい合っただけで初め得ることのできる感覚があるからです。この感覚を研ぎ澄ますことで

いい分析をすることができるようになります。最後に頼ることができるのもまたこの感覚だけだと思います。博士課程はこの感覚を養うのに最適の時期です。

しかし長島隆一さん

は遊星人の2002年1号で「博士課程に進むなら覚悟を決めることだ。厳しい言い方だけどどうしようもない。今の日本は文化を推進する余裕がない。文化を大事にする余裕のある社会が実現することを願うばかり」とおっしゃっています。自分は日本で研究者として職を得たいと思っています。しかしそれが簡単ではないであろうことを肌で感じはじめています。卒業後2~3年はそんなものかとも思いますが、徐々に一般企業に勤める知人の給料や(配偶者側の)親戚の目が気になりはじめてます。学生の皆さま、博士課程進学決定は慎重にしてください。

米国ポスドク生活は、予算獲得のためのデータを要求され続けた2年間でした (Kunihiro et al., 2004a; 2004b)。そのために給与が支払われているのですから当然ともいえます。待遇改善の交渉を切り出すことはできませんでした。人間関係を良好に保ったまま主張/交渉するのは難しいようです。

お金について言及されることは少ないですが、お金がない(海外)生活はお金があるそれより制限されたものになると思います。自分は借り間に住んでいました。研究用コンピュータ、車の購入にあたっては親に援助してもらいました。車がなくても死ぬことはないですが、まともな研究生生活は送れません。資産も戻るところもなし、借金だけがある状態で月の収支が赤字となると不安でくじけてしまいそうになります。もらっ



た分しか働かないということは有り得ません。しわよせはストレスとしてあらわれます。海外に行く予定のある方はお金についてしっかり工面しておくことをすすめます。それだけもらえればなんとかなる／もらえるだけまし、と発言する人は多いですがそういう発言にこそ足を引っ張られます。本当に苦しいのに「まだ自分は贅沢なことをいっているのか」と自分を追いつめることになるのです。

自分の場合配偶者が公務員であることもあって単身で渡米しました。未来は明るいとはいえないし給与も不十分なので、仕事をやめてついてきてほしいとは思えませんでした。経済的大黒柱が女性である家庭は日本ではまだ珍しいかもしれません。皆さま、どんどん単身で日本を出しましょう。若者の理科離れを防ぐためにも、気軽に単身で海外に行くことのできる雰囲気を作っていきましょう。

渡米するのであればなんらかの手段を使って長めのビザを取得することをすすめます。ビザが切れると、米国に滞在できても入国することができなくなります。日本でのビザ更新は数週間を要します。一週間の休みはとれても数週間の休みはとりづらいものです。自分は現在、二度目の出国ができない状態を経験中です。

日本での就職を目指し人並み以上に働くにあたっては志を強く持つ必要があります。その志を支えるのは健康です。体調が悪くなるとすぐにへこたれ弱気になってしまうものです。自分は毎朝始業前にプールで泳いでいます。学生の皆様、大変になる前に健康を維持することの大切さを知り、そのノウハウを学んでください。

万全の対策をしても具合が悪くなることはあります。つらいときに慣れない医療システムを利用するのは大変です。海外にでた際には、症状が軽い時に練習として医者にかかしておくことをすすめます。自分の場合おかしくなったら医者にいけばいいと思えるようになってから（矛盾するようですが）ストレスが減った気がします。現在自分が感じているストレスや閉塞感は、ラボを持った人が時折感じる危機感ほどのもの

ではなからうと推測しています。自分のラボを持ちたいと思っているのでそう思えばいいウォーミングアップです。

この頃日本の大学では任期制が採用されています。若者の理科離れを深刻に受け止めているのであれば、任期雇用を終身雇用より給与面で優遇すべきだと考えます。若手の皆さま、日本に固執せず自分を一番高く買ってくれるところにいきましょう。そして日本を売り手市場にしていきましょう。

Kunihiro T., Rubin A. E., McKeegan K. D., and Wasson J. T. (2004a), Initial  $^{26}\text{Al}/^{27}\text{Al}$  in carbonaceous-chondrite chondrules: Too little  $^{26}\text{Al}$  to melt asteroids, *Geochim. Cosmochim. Acta* 68, 2947-2957

Kunihiro T., Rubin A. E., McKeegan K. D., and Wasson J. T. (2004b), Oxygen-isotopic compositions of relict and host grains in chondrules in the Yamato 81020 CO3.0 chondrite, *Geochim. Cosmochim. Acta* 68, in press

Nagashima K., Krot A. N., and Yurimoto H. (2004), Stardust silicates from primitive meteorites, *Nature* 428, 921-924